

經非圓佛^①。名にはよらず。三十一相の佛の前に法華經を置^キたてまつれば必^ス純圓の佛云云。故普賢經に法華經の佛を説^ク云、佛三種身從^ニ方等^ニ生^ス文。是方等者非^ニ方等部^ニ之方等^ニ法華を方等といふなり。又云、此大乘經是諸佛眼。諸佛因^テ是得^ル具^{スル}五眼等云云。法華經の文字は佛の梵音聲の不可見無對色を、可見有對色のかたちとあらはしぬれば、顯形の二色となれる也。滅せる梵音聲かへて形をあらはして文字と成て衆生を利益する也。人の聲を出すに二あり。一には自身は存ぜざれども、人をたぶらかさむがために聲をいだす。是は隨他意聲。自身の思を聲にあらはす事あり。されば意が聲とあらはる。意は心法、聲は色法。心より色をあらはす。又聲を聞て心を知る。色法が心法を顯也。色心不二なるがゆへに而二とあらはれて、佛の御意あらはれて法華の文字となれり。文字變じて又佛の御意となる。されば法華經をよませ給はむ人は文字と思食事なかれ。すなはち佛の御意也。故天台釋云、受^テ講^ク時^ハ只是說^ニ於^ニ教^ニ意^ニ。教意は佛意。佛意即是佛智。佛智至深。是故三止四請。如此艱難。比^ニ於^ニ餘經^ニ餘經則易文。此釋の中に佛意と申は色法ををさへて心法といふ釋也。法華經を心法とさだめて、三十一相の木繪の像に印すれば木繪二像全體生身の佛也。草木成佛とい

①(木畫の)十佛②まつれば十(成久遠實成...三世常任實佛)139字③[此大乘經是諸佛眼]一④①を=なれども⑤聲=音⑥[意]一⑦聲=音⑧意が聲=心が音⑨聲=音⑩御意...なれり=御心法華の文字と顯れ⑪變じて又=又變じて⑫よ...人=讀誦せん人⑬さだめて=一定たり又